

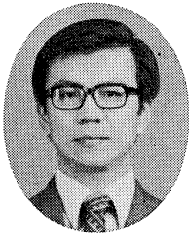
## 昭和 51 年度論文賞受賞論文の決定

昭和 51 年度情報処理学会論文賞は、同賞選定委員会（大野委員長ほか 18 名）において、昭和 50 年 10 月から昭和 51 年 9 月までの間に本誌「情報処理」に発表された全論文 56 編につき慎重に審議が行われました。その結果、下記 3 編が最終候補論文として推薦され、第 198 回理事会（昭和 52 年 3 月）の承認をえて決定されました。

なお、本会表彰規程により、5 月 20 日に開催された第 18 回通常総会において、北川会長より著者に表彰状と賞金が授与されました。

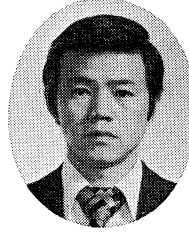
### ○「仮想メモリシステムにおけるプログラムの局所性とその最大化」

〔Vol. 16, No. 12, pp. 1055~1063 (Dec. 1975)〕



益田 隆司君（正会員）

昭和 14 年生。昭和 38 年東京大学工学部応用物理学科卒業。40 年同修士課程修了。同年(株)日立製作所入社、中央研究所に勤務。48 年より同社システム開発研究所に勤務。49 年同主任研究員。52 年 4 月より筑波大学電子・情報工学系講師。オペレーティング・システムの研究開発、計算機システムの性能評価の研究に従事。昭和 47 年度、昭和 49 年度情報処理学会論文賞受賞。



塩田 博行君

昭和 24 年生。昭和 43 年香川県立多度津工業高等学校電気科卒業。同年より、(株)日立製作所にて、各種アプリケーション・プログラムの開発、計算機システム、オペレーティング・システムの性能評価の研究に従事。現在同社システム開発研究所に勤務している。昭和 49 年度情報処理学会論文賞受賞。

#### 〔論文概要〕

仮想メモリシステムにおいて、プログラムを効率よく動作させるために、プログラムの局所参照性を向上させる試みがいくつかの角度からなされている。

本論文では、まず、すでに開発されているオペレーティング・システム、コンパイラの中の約 600 個のプログラム要素のメモリ使用効率を求め、プログラムの実行時におけるメモリの有効利用の状態を明らかにした。

次に、プログラム要素の大きさ、構造とメモリ使用効率の関係を求めた。このような分析から、メモリ使用効率の良い、局所参照性の良いプログラムの作成法を求めた。

#### 〔推薦理由〕

本論文は、仮想メモリシステムのもとで繰り返し使用されるようなプログラムの局所性を高めるために、適切な実験データを求め、それに基づいて実用価値の大きい有効な方法を提供したものと考えられる。

## ○「意味および文脈情報を用いた日本語文の解析——名詞句・単文の処理——」

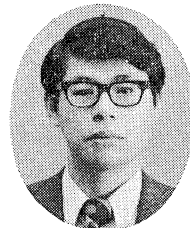
[Vol. 17, No. 1, pp. 10~18 (Jan. 1976)]



長尾 真君 (正会員)



辻井 潤一君 (正会員)



田中 一敏君 (正会員)

(長尾 真) 昭和 11 年生。昭和 34 年京都大学工学部電子工学卒業。昭和 36 年同修士課程修了。京都大学工学部助手、助教授をへて昭和 48 年京都大学工学部教授、現在に至る。国立民族博物館併任教授。京都大学工学博士。パターン認識、言語情報処理、情報科学全般について興味をもっている。本学会前理事。

(辻井潤一) 昭和 24 年生。昭和 46 年京都大学工学部電子工学卒業。昭和 48 年同修士課程修了。現在、京都大学工学部電気工学第 2 学科助手。その間言語情報処理、質問応答システムの研究を行う。現在、人工知能研究について興味をもっている。

(田中一敏) 昭和 25 年生。昭和 48 年京都大学工学部電気工学卒業。昭和 50 年同修士課程修了。現在、日本電信電話公社横須賀電気通信研究所データ通信研究部勤務。京都大学大学院修士課程在学中に標記の研究に従事した。

### 〔論文概要〕

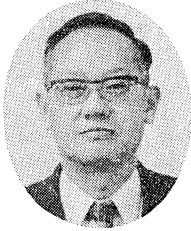
自然言語文の構文を解析するためには、単語の品詞や活用形による統語処理だけでなく、単語の意味や文脈の情報を考慮して処理をする必要がある。日本語によくみられる省略表現や曖昧な名詞句の構造を解析するには、単語の意味記述とそれを使う処理の方式とを確立する必要がある。本論文では、動詞の格構造と名詞の意味的な依存関係とを辞書に記述しておく、これと統語情報とを有機的に関連づけることによって、統語情報だけではむずかしい曖昧な単文や名詞句の解析ができることを示した。またひきつづいた論文では、この意見記述とセマンティック・ネットワークとを使った文脈処理の方式についても言及した。

### 〔推薦理由〕

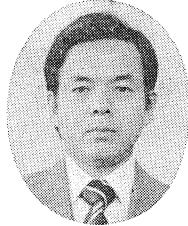
自然言語を理解するシステムを実現することにより、計算機の新しい使用形態を設定することが期待されている。本論文は、このような時代の要請を先取りし、わが国で計算機による意味処理の問題に本格的に取り組んだ最初の研究であると考えられる。

## ○「画像構造線の大域的性質に関する計算機実験とその考察」

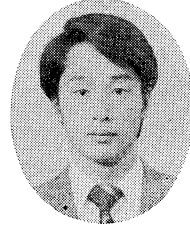
[Vol. 17, No. 7, pp. 641~949 (July 1976)]



榎本 肇君 (正会員)



片山 卓也君 (正会員)



吉田孝登志君 (正会員)

(榎本 肇) 大正 14 年生. 昭和 23 年東京工業大学電気工学科卒業. 郵政省電波監理局, 国際電信電話 (株) を経て, 昭和 42 年東京工業大学工学部電子物理工学科教授. 現在, 同情報工学科教授. 雑音測定, 情報理論, 伝搬, 計算機情報工学一般を研究. 昭和 30 年度電子通信学会稲田賞, 昭和 33, 38 年度同論文賞, 昭和 39, 46 年度テレビジョン学会論文賞受賞.

(片山卓也) 昭和 14 年生. 昭和 37 年東京工業大学電気工学科卒業. 昭和 39 年同大学院修士課程修了. 同年日本アイ・ピー・エム (株) 入社. 昭和 42 年東京工業大学工学部電子物理工学科助手, 昭和 49 年同情報工学科助教授. オートマトン理論, プログラム言語, データ・ベース, 画像処理を研究. 昭和 47 年度電子通信学会米沢賞受賞.

(吉田孝登志) 昭和 27 年生. 昭和 49 年東京工業大学電子工学科卒業, 昭和 51 年同大学院修士課程修了. 同年日本国有鉄道入社, 現在, 新幹線総局大阪電気所勤務. 在学中に画像の構造線の研究を行う.

### 〔論文概要〕

画像を表わす関数  $\varphi(x, y)$  は 3 次元空間中の曲面  $z = \varphi(x, y)$  を表現しているが, この曲面の大域的性質を表わしているものとして構造線 (特徴線, 輪郭線および分割線) が定義されており, 画像の特徴部分として有用であることが認められてきた. 構造線の局所的性質については数学的解析が可成り行われたが, 大域的性質についてはその数学的解析が極めて困難である. 本論文は, グラフィック・ディスプレイ装置を利用して, 構造線の大域的性質の実験的研究を行ったものであり, 求められた大域的性質の他に, このような実験的手法の有用性が報告されている.

### 〔推薦理由〕

本論文は画像データを処理する問題に関して, これを解析的かつ系統的に取り扱うための手法を見出そうとするきわめてユニークなものである. 画像処理技術開発に対する要求は年々強くなってきており, 今後の進展とくに実データに対する適用手法の確立が期待される.

## 52 年度研究会登録について

本年度は下記 11 研究会を次の要領で行います。研究会運営を円滑にするため、6 月中にご登録ください。なお、おそくなると資料を確保しかねます。

- (1) 研究会の聴講および登録は本学会員に限ります。(原則として非会員の聴講および登録はできません)
- (2) 研究会に登録された方は、研究会に参加することができます。(登録料は 1 研究会につき年間 2,500 円です。研究会に欠席された登録員には資料を送付いたします。)
- (3) 登録されていない会員の聴講は、研究会当日聴講料 1,000 円(資料代を含む)を会場受付にていただきます。
- (4) 研究会にて論文発表を希望される会員は、主題およびアブストラクト(300 字以内)を付し、学会事務局研究会担当までお申出ください。

※ 昭和 51 年度にすでに何れかの研究会に登録済みの会員の方には、直接本人宛に登録の継続と新規申込みの確認をいたしましたので、6 月中に回答なき場合には登録の意思なきものとします。

..... 切 り 取 り 線 .....

### 情報処理学会研究会登録申込書 (新規申込者のみ)

昭和 年 月 日

(ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること)

申込み	研 究 会	備 考	申込み	研 究 会	備 考
<input type="checkbox"/>	システム性能評価		<input type="checkbox"/>	イメージ・プロセッシング	
<input type="checkbox"/>	計算機アーキテクチャ		<input type="checkbox"/>	データベース管理システム	
<input type="checkbox"/>	マイクロコンピュータ		<input type="checkbox"/>	人工知能と対話技法	
<input type="checkbox"/>	医療情報処理		<input type="checkbox"/>	記号処理	
<input type="checkbox"/>	計算言語学		<input type="checkbox"/>	ソフトウェア工学	
<input type="checkbox"/>	コンピュータ・ネットワーク		<input type="checkbox"/>		

○申込み会員氏名 \_\_\_\_\_ (正・学・賛) 会員 No. \_\_\_\_\_

○勤務先名・所属 \_\_\_\_\_ Tel. \_\_\_\_\_

所在地 (〒 \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

○資料送付先(上記勤務先以外の場合のみ記入)

(〒 \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

○登録費(年間, 1 件 2,500 円)

2,500 円 × \_\_\_\_\_ 件 = \_\_\_\_\_ 円也

○払込み日 昭和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

○払込み方法

現金書留      郵便振替(学会誌 2 月号に振替用紙添付)      その他

銀行振込み      取扱銀行 第一勧業銀行虎ノ門支店 普通口座 No. 1-013-945

○備 考

貴情報処理学会の請求書( 通), 見積書( 通), 納品書( 通)が必要です。

## IFIP Congress 77 と MEDINFO 77 の発表論文について

本年8月8日よりトロントで開かれる標記の両国際会議で発表される論文のプログラムが来ましたので、本誌「IFIP のページ」(622 ページ)でお知らせいたします。

なお、参加ご希望の方は、早目に IFIP 事務局へお申込みください。参加申込書が必要な方は返信用封筒(15×22 cm 以上)に140円切手を貼り、宛名明記の上、学会事務局へご請求ください。

## 研究会開催通知

(昭和52年6月15日～7月31日)

研究会	日	時	会場	備考
計算言語学	6月24日(金)	14:00～17:00	機械振興会館	下記参照
コンピュータ・ネットワーク	7月6日(水)	14:00～17:00	同上	同上
計算機アーキテクチャ	7月12日(火)	14:00～17:00	同上	同上
マイクロコンピュータ	7月13日(水)	10:00～16:00	同上	同上
データベース管理システム	7月14日(木)	14:00～17:00	同上	同上
ソフトウェア工学	7月20日(水)	14:00～17:00	同上	同上
記号処理	7月21日(木)	14:00～17:00	同上	同上
医療情報処理	7月25日(月)	14:00～17:00	同上	同上
イメージ・プロセッシング	7月28日(木)	13:30～17:00	北海道大学	同上

### ◆ 第10回 計算言語学研究会

(主査: 和田 弘, 代表幹事: 西村 恕彦, 長尾 真, 野崎昭弘)

日時 昭和52年6月24日(金) 午後2時～5時

会場 機械振興会館 5階 5S-1号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町駅, 都営1号線大門駅, 都営6号線御成門駅下車, 国電: 浜松町駅下車, バス: 新橋一渋谷線東京タワー, 等々力一東京駅八重洲口線飯倉1丁目下車, Tel. (03) 434-8211]

議題 (1) 同姓同名の発生頻度 田中康仁(日本ユニバック)  
[概要] 同姓同名がどの程度発生するか母集団の変化(1万～100万)の中で調査したものである。さらに仮名文字と漢字とではその発生がどの程度差があらわれるか等についても述べる。

(2) 高校教科書用語調査の概要

中野洋一, 斉賀, 土屋, 藪岡, 野村, 佐竹, 斉藤, 田中

(国語研究所)

〔概要〕 国立国語研究所では、昭和 49 年度から高校教科書理科・社会の用語（延べ 60 万語）の語彙調査をすすめている。このたび調査システムが一応の完成をみたので報告する。また、合わせて文章における語彙の構造をあきらかにするための小調査についても報告したい。

## ◆ 第 21 回 コンピュータ・ネットワーク研究会

（主査：高島堅助，代表幹事：大島 裕）

日 時 昭和 52 年 7 月 6 日（水） 午後 2 時～5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室〔所在地は前記参照〕

議 題 (1) ネットワーク・ノードの研究

後藤龍男，高久田博，鞍掛 忠，岡田勝利（日電）

〔概要〕 TSS, RJE サービスなどを目的とした異機種間結合分散型ネットワークにおいて、データ・ステーションタイプを NVT として、多種多様な端末をノードに接続できるよう構成した検討について述べる。

(2) ハイレベル手順を用いた計算機間通信について

山口宏二，是友春樹（富士通）

〔概要〕 計算機間通信にハイレベル手順を用いたオンラインシステムが商用システムで稼動してから 1 年半を経過した。本稿では、ネットワークアーキテクチャの概要を簡単に述べ、更に実際のシステム運用での様々な面からの評価を中心に報告する。

(3) N-1 プロジェクトにおける東大 HOST の実現方式

石坂裕之（FHL），猪瀬 博（東大・工）

〔概要〕 N-1 プロジェクトにおけるコンピュータ・ネットワークを実現するにあたり、東京大学大型計算機センターの大型システムにインプリメンテーションしたネットワーク関連機能とその実現方式について報告する。

コンピュータ・ネットワーク研究会発表論文募集：コンピュータ・ネットワーク研究会では、かねてからコンピュータ間通信，データ通信を対象とした論文発表，討論を行ってまいりましたが，今後ともその活動を活発なものとしてゆくために，本学会会員の方々から，発表論文を，広く募集させていただくことに致しました。今年度は，今後，9 月，11 月，1 月に研究会を予定しております。論文をご提案いただく際には，題目，著者名，所属，要旨（約 60 字），連絡先，発表希望時期をご記入の上，学会事務局研究会係までご送付下さいますようお願い致します。

## ◆ 第 19 回 計算機アーキテクチャ研究会（主査：相磯秀夫，代表幹事：所真理雄）

日 時 昭和 52 年 7 月 12 日（火） 午後 2 時～5 時

会 場 機械振興会館 6 階 67 号室〔所在地は前記参照〕

議 題 ペトリネットのハードウェアによる構成 松原康夫（山梨大・工）

〔概要〕 ペトリネットをハードウェアで直接インプリメントする方法について述べる。ペトリネットは各種の同期問題を記述するのに使われているが，ハードウェアでこれらの同期問題を直接実現することができ，マルチプロセッサシステムにおけるプロセッサ間の同期を取る装

置等多くの応用の可能性を持つ。また、ストーンが属性を持つ場合について述べる。

- (2) コンピュータ・ユーティリティにおける情報の参照と保護に関する  
2,3 の問題 池田克夫 (京大・工)

〔概要〕 番地空間の構成においては情報の参照、結合、情報保護、手続の構成が問題となる。現在の計算機における問題点とその対策について論じる。

- (3) NCC 77 報告 所真理雄 (慶大・工)

〔概要〕 NCC 77 におけるコンピュータアーキテクチャのいくつかのトピックを報告する。

### ◆ 第1回 マイクロコンピュータ研究会 (主査: 森 亮一, 代表幹事: 田島守彦)

日 時 昭和52年7月13日(水) 午前10時~午後4時

会 場 機械振興会館 6階65号室〔所在地は前記参照〕

議 題 (1) TMS 1000 1チップマイクロコンピュータ

栗原敏雄(テキサスインスツルメントアジアリミテッド)

〔概要〕 TMS 1000 アーキテクチャとアプリケーションについて述べる。

- (2) 汎用8ビット1チップコンピュータの設計思想

知名定清 (インテルジャパン)

〔概要〕 汎用8ビット1チップコンピュータ 8048 の設計思想とそのアプリケーションについて述べる。

- (3) 1チップIOプロセッサの設計 浪本敬二, 小野雅彦 (東芝)

〔概要〕 1チップIOプロセッサを例にして, 専用マイクロプロセッサの設計の考えを説明する。

- (4) ミューコム-42, -43 1チップマイクロコンピュータ

界 満夫 (日電)

〔概要〕 ミューコム-42, -43 のアーキテクチャと機能を述べる

- (5) 4ビット1チップマイクロコンピュータ MN 1400 シリーズについて

榎木好明 (松下電気)

〔概要〕 4ビット1チップマイクロコンピュータ MN 1400 シリーズの構造, 機能および特徴について説明する。

- (6) シャープにおける1チップマイクロコンピュータ設計思想

禿 節史, 佐野健二, 木村征二 (シャープ)

〔概要〕 現在までにシャープが開発した1チップマイクロコンピュータ SM シリーズの設計思想ならびに概要を述べる。

### ◆ 第2回 データベース管理システム研究会

(主査: 穂鷹良介, 代表幹事: 植村俊亮)

日 時 昭和52年7月14日(木) 午後2時~5時

会 場 機械振興会館 6階65号室〔所在地は前記参照〕

- 議 題 (1) System-R について 鷹尾洋一 (日本アイ・ビー・エム)  
 [概要] System-R は IBM San Jose 研究所において研究開発中の関係式主体のデータベース管理システムである。研究実験を目的としたものであるが、実用的な環境のもとでの生態検討を目的としている。ここでは、この System-R の概要を紹介する。
- (2) SDSP (System Design/Development Standard Procedure) について 椿 正明 (千代田化工建設)  
 [概要] データベースの導入ユーザ言語の統一などによりデータ構造、プログラム構造、入出力方式が標準化されてくるとシステム設計開発そのものの標準化が容易になる。千代田化工で開発されたシステム設計・開発の標準的手法について概説する。
- (3) データ・モデルの分類学—データベース・モデル研究委員会中間報告 千葉恭弘 (ユニバック総研)  
 [概要] 現在までに提唱されている多くのデータ・モデルを分類・整理して、相互の関連を検討し、システム開発の動向を概観する。トロント大学 CSRG による“A Taxonomy of Data Models”のアプローチを参考にする。

## ◆ 第2回 ソフトウェア工学研究会

(主査: 国井利泰, 代表幹事: 斉藤信男, 大野尙郎, 原田賢一)

- 日 時 昭和 52 年 7 月 20 日 (水) 午後 2 時～5 時  
 会 場 機械振興会館 6 階 67 号室 [所在地は前記参照]  
 議 題 (1) ソフトウェア生産技術の動向 宮本 勲 (日電・中研)  
 [概要] ソフトウェア生産技術について、ソフトウェア要求、定義設計、プログラミング、テスト、保守、ソフトウェア品質評価、管理の各分野の技術動向を紹介する。
- (2) 再帰的プログラムの検証システム 植田健治, 中村雄三, 永田守男, 中西正和 (慶大・工)  
 [概要] 再帰的プログラムの性質を検証するためのシステム TKP を紹介し、例題を示す。
- (3) An algorithm of extracting a program from a roof of its specification 上村 務 (東芝)  
 [概要] インタラクティブな定理の証明システムを想定し、証明を行った定理より、この定理を仕様として持つようなフローチャートプログラムを合成する方法について述べる。

## ◆ 第1回 記号処理研究会

(主査: 瀧 一博, 代表幹事: 竹内郁雄, 佐々木建昭, 田中穂積)

- 日 時 昭和 52 年 7 月 21 日 (木) 午後 2 時～5 時  
 会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 [所在地は前記参照]  
 議 題 (1) 記号, 数式処理指向計算機 FLATS の構想



後藤英一（東大）、井田哲雄、相馬 嵩（理研）

〔概要〕 理化学研究所で現在設計をすすめている計算機システム FLATS をソフトウェア、ハードウェアの両面から紹介する。

(2) 述語論理的プログラミング 洲 一博（電総研）

〔概要〕 プログラムを述語論理形式でかき、直接実行する方法が提案されている。これを実現する方式について述べる。

(3) ゲーム・プログラミングの手法 竹内郁雄（電電・武蔵野通研）

〔概要〕 Hex, Calculation 等の実例を通してゲームプログラムの考え方、コーディング手法について述べる。

### ◆ 第 17 回 医療情報処理研究会

（主査：開原成允，代表幹事：上野晴樹，佐々木陽，飯坂讓二，稲田 紘）

日 時 昭和 52 年 7 月 25 日（月）午後 2 時 5 時

議 題 コンピュータ・ネットワークの医学的応用〔詳細は次号参照〕

### ◆ 第 13 回 イメージ・プロセッシング研究会

（主査：尾上守夫，代表幹事：長尾 真，白井良明，高木幹夫）

日 時 昭和 52 年 7 月 28 日（木）午後 1 時 30 分～5 時

会 場 北海道大学工学部 応用電気研究所講堂

〔札幌市北 12 条西 6 丁目，札幌駅より徒歩，地下鉄：南北線北 12 条駅で下車 Tel. (011) 71-2111〕

議 題 Walsh, Hadamard, Haar 関数による高速 X 線断層像合成

佐藤一弘，古村光夫，吉本千禎（北大・応用電気研究所）

〔概要〕 CT における断層像合成で使われているフーリエコンボリューション法に対して検討をくわえ，新しく Walsh, Hadamard および Haar 変換により断層像合成の高速化をはかった。64×64～1024×1024 の画像サイズに対する計算機によるシミュレーションでは，従来の方法よりも高速であった。

(2) 北大・応用電気研究所における画像関係の研究

吉本千禎（北大・応用電気研究所）

(3) 北大・応用電気研究所の見学

## 「システム性能評価法」講習会の案内

本学会のシステム性能評価研究会（主査 石田晴久）では，最近のシステム性能についての評価の手法とその実施例につき，過去 3 年余の研究会の成果を踏えて，第一線の専門家による標記の講習会を，来る 9 月 21 日（水），22 日（木）の両日に東京で開催いたします。

詳細は次号本欄に発表いたしますので，会員各位におかれては，あらかじめ日程を調整され，多数ご参加くださいますようご案内いたします。

# 「CODASYL データベース用データ記述言語」 発刊のお知らせ

## CODASYL Data Description Language

Journal of Development, June 1973

情報処理学会 データベース言語研究委員会訳

本書は CODASYL によるデータベース用共通言語の仕様書 (DDL JOD) の完訳である。1971 年の DBTG 提案をもとにしてデータベース全体を記述する共通言語として設計された本言語には、すでに数おおくのコンパイラが存在する。本書はその言語仕様を定める基礎資料として、データベースの研究開発に不可欠であろう。アメリカではすでに NBS から刊行されて版を重ねている。

なお付録としてプログラム例、COBOL データベース機能の概要を添えて、本書の内容がより価値あるものになっている。主要目次は次のとおり。

第1章 序、背景および歴史

第2章 主要な概念

範囲と目的、用語、概念の体系、データ記述言語の機能

第3章 データ記述言語 (DDL)

構文規則と環境、固有データ構造記述項、領域記述項、レコード記述項、親子集合記述項、

訳者付録 CODASYL データベース用データ記述言語によるプログラムの例

COBOL データベース機能の概要

索引 英和索引、和英索引

..... 切り取り線 .....

昭和 年 月 日

## 購入申込書

「CODASYL データベース用データ記述言語」を下記によって申し込みます。(該当欄を○印でかこむ)

1. 氏名 \_\_\_\_\_ (会員, 非会員)

連絡先 \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_

発送先 \_\_\_\_\_

2. 購入希望 会 員 2,300 円× \_\_\_\_\_ 冊 = \_\_\_\_\_ 円

非会員 3,000 円× \_\_\_\_\_ 冊 = \_\_\_\_\_ 円

郵送希望の場合には1冊につき200円を追加すること

3. 送金の方法

計 \_\_\_\_\_ 円也をつぎの方法で送金いたします。

○現金書留 ○郵便振替 (払込口座: 東京 5-83484 宛)

○銀行〔三菱, 第一勧業, 住友の各虎ノ門支店, 三井日比谷支店, 宛〕

## 「情報処理」論文の別刷代と紙数制限について

本誌2月号「第17回全国大会における会長あいさつ」ですでにご高承の通り、会員総数一万名に達し、情報処理科学の研究が今後ますます展望される現状を反映して、論文投稿が激増し、査読完了・掲載待ち論文が年ねん滞積してきました。

この解消には増ページが必要ですが、他方、印刷費、トレース費など論文掲載に要する費用は急激に高騰しています。そのため、本学会においても、他学会の例にならない論文掲載については、論文別刷価格改訂と買取り義務化により、印刷実費を一部負担いただくことになりましたので、ご了承ください。

- (1) 論文別刷は、従来は買取りは任意でしたが、52年7月1日以降に受付けた論文は、買取りを義務化いたします。
- (2) 改訂価格表は下表のとおりです。
- (3) 紙数制限については、本紙上で追ってお知らせいたします。
- (4) 欧文誌は、「情報処理」の別刷改訂価格表に準じて、新しく設定します。(決定次第本欄で会告いたします。)

別刷価格表 (但 100 部)

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8
価格	7,000円	14,000	21,000	28,000	35,000	42,000	63,000	84,000

## 第3回 VLDB 国際会議への参加について

標記国際会議は、既報のとおり来る10月6日、7日、8日の3日間、東京で開催されます。このたび参加費が決定しましたので、お知らせいたします。

**参加費** 共催団体会員 30,000円 (論文集を含む)  
非会員 45,000円 ( " )  
学生会員 15,000円 (論文集を含まず)

なお、申込書は、次号本欄に綴じ込みますのでご利用ください。

## 情報処理学会第 18 回全国大会の講演申込みについて

昭和 52 年度第 18 回全国大会を下記により開催いたします。論文発表を希望される会員は、下記要領により早目にお申込みください。

- 開催期日** 昭和 52 年 10 月 3 日 (月), 4 日 (火), 5 日 (水)
- 会 場** 東京工業大学 (東京都目黒区大岡山)
- 応募資格** 本学会個人会員 (正会員, 学生会員) に限りますが, 共同発表の場合には, 発表者の内 1 名は会員でなければなりません。登壇して発表するのは会員を原則とし, 1 人 1 回に限ります。
- 申 込 料** 特に必要としません。ただし, 登壇発表される方には論文集原稿を提出される際に, 必ず参加費と論文集の予約金を納入していただきます。
- 申込方法** 添付の申込用紙に必要事項を記入し (1 件 1 枚とします), 宛先明記の返信用封筒 (論文原稿用紙送付用で大きさは A 4 (18cm×26cm) のもので切手は不要です) を同封のうえ, 7 月 7 日 (木) (必着のこと) までに下記あてにお送り下さい。
- 論文提出** 所定の原稿用紙を 7 月下旬に送付いたしますので, 8 月 22 日 (月) までにご提出下さい。なお英文原稿も認めます。
- そ の 他** 詳細については, 決定次第本欄にてお知らせします。
- 申 込 先** 〒 105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内 308-3 号室  
(社)情報処理学会 第 18 回全国大会係 Tel. (03) 431-2808

### 講演内容

1. ハードウェア
  - a. アーキテクチャ
  - b. 入出力装置, 演算, 記憶部
  - c. 端末装置
  - d. マイクロコンピュータ
2. ソフトウェア
  - a. プログラム言語
  - b. プログラム処理
  - c. オペレーティング・システム
  - d. データ・マネージメント
  - e. ソフトウェア・テクノロジー
3. 数 理
  - a. アルゴリズム, 形式言語理論
  - b. 数値演算
  - c. 非数値演算
  - d. 最適化法
  - e. 自然言語
4. 技術, 科学への応用
  - a. パターン認識, 画像処理
  - b. ロボット, 人工知能
  - c. グラフィックス
  - d. CAD, デザイン・オートメーション
  - e. マン・マシン・システム
5. 社会, 人文, マネジメントへの応用
  - a. シミュレーション, モデリング
  - b. 教 育
  - c. 医 療
6. コンピュータ・ネットワーク
7. 情報検索, データベース
8. 性能評価
9. 保守, 信頼性
10. その他

## 情報処理学会第 18 回全国大会講演申込み用紙

題 目	本欄に記入の題目でプログラムを作成しますので、題目を変更しないよう注意してください。
ふりがな 氏 名 (所属)	申込者が複数の場合には左から右の順に記入し講演する方に○をつけて下さい。
原稿用紙送付先	(所在地) 〒  (氏 名) <span style="float: right;">Tel.</span>
講演内容 (内容の詳細は申込要領を参照し、該当項目に○をつけて下さい。該当項目が複数にわたる場合は、最も適合するもの一つに◎をつけて下さい。)	
該当項目	概 要 (300 字程度)
1. a	
b	
c	
d	
2. a	
b	
c	
d	
e	
3. a	
b	
c	
d	
e	
4. a	
b	
c	
d	
e	
5. a	
b	
c	
6.	
7.	
8.	
9.	
10.	